

町政を問う!!

13 議員が質問・提案を

震災対策

ノアの方舟「津波救命艇」

導入に向け積極的に研究



ふじもと いわよし 議員 藤本 岩義

問 昨年、6月議会で質問したノアの方舟「津波救命艇」は、試作艇（35人乗700万円）が完成し、三月から六月末まで高知で展示公開され、避難困難地域の福祉施設や避難が間に合わない人たちの最後の選択肢の一つとして普及が進むことを想定されているが、導入に向け積極的に調査研究、要望しているか。

また、黒潮町で展示公開をし、避難計画を検討している関係者や住民に乘船体験をして頂く考えは無いか。

答 大西町長

優先順位の避難道、避難広場、タワーを整備しながら、あらゆる避難の選択技を排除しない町の立場として、津波救命艇についても要望も上げ、調査研究しながら導入に向けて検討する。

展示期間中に視察を行い、黒潮町でも展示等ができるか運輸局とも協議する。

職場環境

健康で働きやすい職場

早期に対策する

問 防災事業や、補正予算で事業量が多くなっている。労働安全衛生法に基づく職員のメンタルヘルス（こころの健康）対策や100時間以上の時間外勤務をしている職員に

早期に対策する

答 武政 総務課長

産業医による指導はできていないか。また、机上の整理を行なう考えは無いか。来客者や、部下、同僚の顔が見えない職場環境は問題であると思うが各課長に指示する考えはあるか。

全国の自治体でも同じ問題を抱えている。職員が健康で安心して働けるために幡多地域の人事担当者協議会でアドバイスをいただける組織、団体の開拓を行っている。産業医は黒潮町では一名必要であるが現在委託をしていない。早期に確保する。

職場の環境整備はこれまでも指導してきたができていないので各課長に指導していく。

農道管理

農道舗装の対応は

様々な手法で対応

問 部落からの農道舗装の要望が出されておりと思うが、要望に応えられているか。

中山間が高齢化のために急速に限界集落（65歳以上が50%現在10集落）に近づき、地域の農道や水路の維持が困難になっている。そんな状態であっても、地域の方は材料代を見ていただければ、労務は自分たちで舗装をと頑張っている。中山間の生産基盤である農道を守るために、町はどう把握し対応しているのか。

答 野並 農業振興課長

本年の要望は28部落5059mで、300万円の予算では要望に応えられるとは言い難い状況なので案分担当をしている。高齢化が進み集落の運営が厳しくなっていることは承知している。農道の維持管理は、一般財源だけでは厳しいので国、県の交付金事業も取り入れて様々な手法で、農業者だけで無く地域全体で守る取組を進める。農道の把握も十分でなく農道台帳も整備がされていないので今後整備をしていく。

中山間が高齢化のために急速に限界集落（65歳以上が50%現在10集落）に近づき、地域の農道や水路の維持が困難になっている。そんな状態であっても、地域の方は材料代を見ていただければ、労務は自分たちで舗装をと頑張っている。中山間の生産基盤である農道を守るために、町はどう把握し対応しているのか。